

NANZAN
UNIVERSITY

南山大学図書館報

ΔΥΝΑΜΙΣ

～デュナミス～

No.43 2003.4.1

CONTENTS

- 1 冬の日の愉悦 人文学部教授 図書館長：大森正樹
- 2 図書館研修生に聞きました！ 図書館研修生のみなさん
整理係：岩田真美 閲覧・参考係：川窪知子
- 4 Essay ストープと灯油缶の間 総合政策学部助教授：中島靖次
- 5 2003年度サービス拡大変更のお知らせ
春学期図書館利用講習会のお知らせ
図書館ってこんなに使える！ 閲覧・参考係：加藤富美
- 8 瀬戸図書館からのお知らせ(1)社会倫理研究所・各地域研究センター所蔵資料の瀬戸図書館への取り寄せ方法変更について
瀬戸図書館からのお知らせ(2)
瀬戸図書館内でのノート PC 利用について
瀬戸図書館からのお知らせ(3)
開館時間を午前 9 時30分に変更！
教育研究支援係：土屋 玲
- 10 資料紹介 教育研究支援係：佐藤裕子
- 12 新入生企画展のお知らせ／編集後記

冬の日の愉悦

大森 正樹

何か妙に気になって、何冊かの作品を読むと、ぐいぐいと引っ張り込まれ、そのままその作家のものを読みつづけるというようなことがある。私の場合もそうしたものがいくつかあるが、かなり前からのめりこんでいるのが、アンリ・ボスコ(1888-1976、ボスコ家はもとイタリア出身である。その一族には聖人のドン・ボスコがいて、彼もその評伝を書いている)というフランスの作家のものである。ボスコという名を知ったのは、G・バシュラール(1884-1962)の『夢の詩学』^{*1)}を読んでいたとき、しきりとボスコという名前が出てくるので、どういう作家だろうかと思い、図書館からその童話(?)『ズボンをはいたロバ』(多田智満子訳)を借りて読んでみた。確かに子供が、つまり少年と少女が出てくるので、童話なのだが、はたして子供がそれを読んで、単純に面白いと感じるだろうか、とまず思った。感じるとすれば、読後に何らかの不安感に襲われるということであろう。事実、自分は不安になった。一体主人公はどうなってしまうのか。それが杳としてわからない。ざっと読み返してみてもどうもつかめない、しかし何か気になるのである。訳者解説を見ると、ボスコの韜晦性などという言葉が出てくる。はは、これがそうか、と思っても、それでいいと納得できるわけではない。そこでどうもこのあとの話らしい『イヤサント』などを、洋書店やブラ

ンスの本屋から取り寄せて読んでいくはめになった。読んでいても実はなかなか話が進んでいかないように見えるところがある。それでも何とか読み続けていくと、どんどん話が展開していった、いつの間にか、自分自身何かしら深い森や古びた屋敷の中に迷い込んでしまったような気がしてくる。そして主人公と同じように、そこから逃れようと、しかし怖いものは見たいという心境の狭間でもがくことになる。

バシュラールが「夢」という点でこの作家を論じていたように、作家が読者に誘うのはその闇と光の交錯するボスコの夢の世界に入っていくことである。頻出する「影」という言葉は何かしら深層心理的なものを予測させるし、結局は自己の内面に降りていく道を読者は作家とともに辿るのだろう。プロヴァンスという土地から生えてたかのような登場人物が、その祖先からの血の確執を受け継いで、孤独の中を彷徨するのも自己探究の一つの様相であろう。

冬の休日に、ほどよく暖められた部屋にゆったりと座り、窓から枯れた梢を眺め、かたわらにボスコの本があれば、これは、私にとり、愉悦以外のなにものでもない。

(Masaki OMORI：人文学部教授 図書館長)

南山大学図書館での請求番号

*1) 135/807

図書館研修生に聞きました！

名古屋図書館では、2002年度秋学期から、図書館の仕事を体験する「図書館研修生」の制度が始まりました。「図書館研修生」制度は、司書課程・学校図書館司書教諭課程受講生を対象とし、自由な時間に、自主的に活動し、図書館業務を行うことにより将来において地域・国際社会へ貢献する意義を学ぶことを目的としています。

今回、2002年12月から2003年3月まで、3名の研修生が、図書館整理係において、中国書の書誌作成補助作業、過去に作成した書誌の特殊文字データ入力、総合目録データベース（国立情報学研究所）への所蔵登録などのデータ入力作業を行いました。

3名の研修生に感想などを聞いてみました。

研修生として活動したいと思った動機は？

- ・ひととおり司書課程の講義を受けてきたものの、図書館の内部では業務をどのように分担し、どんな手順と方法で実際に活動しているのかまったくわからず、ぜひ知りたいと思ったことがきっかけです。
- ・授業で学ぶうちに、実際の図書館での仕事を体験してみたいと思ったため、研修生を志望しました。図書館内でどんな仕事をしているか興味がありました。
- ・司書の講義も受講していて、普段使っている図書館がどんなシステムで運営されているのか興味があったので、大学図書館の裏側を覗くよい機会だと思ったためです。

実際に資料のデータ入力をしてみた感想を教えてください。

- ・書誌情報の入力は、決められたフォーマットに合わせて間違いのないように入力していく根気のいる作業でした。誤った入力をしてしまうと検索した時に見つからないと思うと、とても重要な作業でした。1冊1冊の本に手がかけられているのを感じました。
- ・図書館の仕事の中でも直接利用者と接することはない地道な作業だけれど、全体的にみれば重要な仕事だと感じました。正確さも早さも必要だと思いますが、なかなか大変です。
- ・書誌を入力している本が中国語なので、辞書で調べてピンインをふりました。先生がよく講義で司書は幅広い知識が必要と話していましたが、第2外国語で中国語を選択していながらあまり真面目に勉強していなかったため、余計に身に染みました。

図書館研修生として実際に図書館業務を体験してみての感想を教えてください。

- ・利用者が自分の思う資料にできるだけすぐにたどりつけるように、図書館がたくさんの下準備をしてくれているのを感じました。利用者にとってわかりやすい、ということの大切さを感じました。とても楽しく実習させていただきました。

- ・作業を通して、図書館の仕事がより具体的に分かりました。インターンシップとはまた違うけれど、図書館での作業を通して「働く」ということや進路についても考えるよい機会になりました。
- ・実際には図書館の内部ではカウンターなど利用者がよく利用する業務に始まり、購入した図書を貸し出せるようにすることや、データを入力したり等の種々の細かい業務が行われていて、図書館をまさに運営しているのだと思いました。

司書課程受講者の後輩に一言

- ・通常の講義に加えて、9・10限に残って講義を受けていくのは大変でしたが、いつも利用する図書館という機関を多少なりとも知ることができ、今回のような実習の機会も得ることができ、良かったと思います。
- ・図書館のより奥深いところを知るよい機会です。勉強になるし、普段入れないところに入れます。
- ・司書になりたい方や、興味のある方は、やる価値があると思います。授業で聞いた業務が現実に行われていることが分かります。

実際に研修生を指導した整理係から、研修生へコメントをもらいました。

作業はどれをとってもパソコンに向かってひたすら作業するという根気の要

るものだったのですが、皆さん熱心に黙々と作業にあたってくださいました。ふと気が付くと、来てくださった時と帰られる時に言葉を交わしただけで作業中は全く会話しなかったなどという時もあり、後で申し訳なかったと反省することもありました。

また、2002年度秋学期の場合、図書館研修生が実際に活動できるようになった時期が12月と遅かったため、実質的な活動期間が短くて十分な活動をしていただくことができずとても残念でした。

しかし、図書館の2階で行われている裏方の作業を多少なりとも体験し、知っていただくことは出来たかと思います。この体験は、図書館研修生の皆さんにとってすぐに役立つものではなかったかもしれませんが、いつか何らかの形できっと役立つものと信じています。

2003年度も、図書館では「図書館研修生」の活動を支援していきます！

活動の内容は、ライブラリーツアー、レファレンス・カウンター業務、返本作業、図書館企画展・広報活動、学生用資料の選定、図書のデータ入力作業、寄贈雑誌・図書の整理作業などの図書館業務で、研修生の希望をもとに決定します。

興味のある司書課程・学校図書館司書教諭課程受講生は、図書館または担当教官にお問い合わせください。

(図書館研修生のみなさん & Mami IWATA：整理係 岩田真美
Tomoko KAWAKUBO：閲覧・参考係 川窪知子)

Essay

ストーブと灯油缶の間

中島靖次

昨年暮れの新聞に次のような記事が掲載されていた。題して「隣の大事件」。この冬一番の寒さとなったある夜、警察に「灯油をストーブにどう入れたらいいのか分からない」という電話が入った。署員は半信半疑だったが、現場に着くと「寒くてどうしたらいいのか分からない」と言って25歳の女性が泣いていたという。署員は、ポンプの使い方を一から説明。しばらくして「無事ストーブが点火した」というお礼の電話を受け取ったのだそう。なんとあきれた話だと思うのだが、あきれてばかりはいられないさまざまなことをこの一件は考えさせはしないだろうか。そのうちの一つとして、この記者は「こんなことを尋ねる相手もないとは。家族や近所の絆が弱くなった証拠だな」という署員の言葉で記事を結んでいる。

なるほど、ある統計によれば、西暦3500年には日本人は約1名になってしまうのだそうだから、「家族や近所の絆」はその基盤の存在をかけて深刻な問題であることは間違いあるまい。しかし、そのずっと手前のところで根本的な問題に引っ掛かるような気がする。「何もいきなり警察にいかなくても」という戸惑いも、その手前にある問題だが、それを今はおくとするならば、この現場のストーブと灯油缶の間で、ポンプの存在はどうなっていたのだろうかというのが最も気になるところではあるまいか。この25歳の女性にとって、われわれの見慣れた、というか使い慣れたあのチュルチュルポンプは、ストーブと灯油缶とをつなぐモノとして存在できていなかったのだから。

この記事を読んで、先日友人から聞いた話を連想した。予備校で講師をしている彼によれば、最近の子どもは比喻が通じないというのである。そのとき友人が例にあげた比喻の例は絶妙なもので思わず笑ったのだが、不覚にもその例を忘れてしまったのでおもしろさ半減であるが、例えば、現在の人間の振る舞いは、自分の乗っている船を食べながらこいでいるようなものだというような例に対して、子どもは「船なんか食べられるわけがない」と例そのものが現実にはありえないという反応を示し、せっかく理解を助けようとした説明を

受けつけないのだそう。

ストーブと灯油缶とポンプは、もちろんそれら自体の間には何のつながりもない。しかし、われわれはそれらが置かれた状況から、試行錯誤的に考えたり、実際にあれこれやってみたりすることによって、実際には何もないところに或るネットワーク（ちょっとおおげさか）を直観するに至るのではない。そのとき初めてポンプは、ストーブと灯油缶とをつなぐモノとして存在しうる。これは論理というより、想像的直観の問題と思われる。比喻についても、その内容が現実には存在しなかったり、論理的には正しくなくても、それだからこそ、その間隙において、想像力による直観によってそれまでにない理解を創造するに至るのではないだろうか。この想像力による直観こそ、われわれとコンピュータとを分ける決定的な能力であることを人工知能の研究は教えている。何よりも想像力によってこそわれわれは、他者との空間を「こころ」の存在によって充たし、そのことによって初めて人間仲間として相互に存在できているとするならば、上にあげたような話を聞くと、ちょっとぞっとするのである。

モノと人間との関係において、人間を根本的に考え直してみたいと思う人には、いきなりで大変かもしれないけれども、ハイデガーの『存在と時間』（中央公論社『世界の名著』第62巻）^{*1)}をお勧めします。これについては、現代のハイデガー解釈として、ドレイファスの『世界内存在』（産業図書）^{*2)}が出ています。この著者は、人工知能の批判者としても著名なので、上にあげた話との関連でおもしろいかもしれません。そのつながりで、人間と人工知能との関係を分かりやすく説いたものとしては、黒崎政男の『となりのアンドロイド』（NHK出版）^{*3)}が興味深く読めると思います。

(Seiji NAKASHIMA：総合政策学部助教授)

南山大学図書館での請求番号

*1) 080K/299/v.62 080L/299/v.62/B

*2) 134K/3163

*3) 104K/438

2003年度 サービス拡大・変更のお知らせ

拡大① 南山短期大学図書館の所蔵資料の取り寄せを開始

南山短期大学図書館所蔵資料を ネオシリウス NeoCILIUS Knowledge ナレッジ OPAC オーバーバック（以下 OPAC）から取り寄せ申込みできるようになりました。南山短期大学図書館の所蔵資料は OPAC で検索することができます。名古屋図書館・瀬戸図書館の所蔵資料と同じ方法で、OPAC から取り寄せ申込みをしてください。本学図書館の貸出冊数の範囲内で利用が可能です。また従来通り、学外者として直接出向いて利用することもできます。

拡大② 瀬戸図書館から社会倫理研究所ならびに各地域研究センターの所蔵資料の取り寄せを開始

瀬戸図書館に社会倫理研究所ならびに各地域研究センター（アメリカ研究センター・ラテンアメリカ研究センター・オーストラリア研究センター・ヨーロッパ研究センター）の所蔵資料を取り寄せることができるようになりました。利用希望者は瀬戸図書館の貸出・返却カウンターに申し出てください。

変更 教職員、大学院生等に対する製本雑誌・統計資料の貸出期間を短縮

教職員、大学院生、非常勤講師等の利用者は従来、製本雑誌・統計資料を2ヶ月間借りることができましたが、今年度から2週間とします。これは製本雑誌や統計資料を、ひとりの利用者が長期に借り出すことによる他の利用者への影響をできる限り少なくするためです。ご理解とご協力をお願いいたします。

新規 特別聴講生の利用

単位互換として本学の開放科目を受講している他大学の学生は本学の学部学生と同じサービスを受けられます。ただし受講科目の開講学期内に限定されますので、学期外は学外者として登録をしてください。（次頁参照）

春学期図書館利用講習会のお知らせ

図書館の上手な使い方や資料の探し方などを説明する講習会です。
個人でも、ゼミ・授業単位でも申し込みできます。

■ 講習の内容 ■

資料の貸出・返却手続きとレファレンスの利用方法、
NeoCILIUS Knowledge OPAC の使い方、図書の探し方、雑誌論文・記事の探し方、
新聞記事の探し方、学外資料の入手方法の紹介、図書館ツアー など

◆開催日程：4月11日(金)～6月30日(月)（ただし土曜日を除く）

◆所要時間：60～90分

（ただし、個人の申し込みの場合、開始時間は15：00まで）
人数・内容・時間などで相談に応じます。

◆申込場所：受講を希望するキャンパスの図書館レファレンス・カウンター
申込期限は講習希望日の前週の木曜日までです。

図書館って、こんなに使える!! (たとえば学部学生の場合…)

資料の貸出

一般図書 10冊 2週間

指定図書 2冊 1週間

※予約者がいなければ更新手続きをすることにより続けて借りることができます。

(4年生の場合、卒論貸出)

上記冊数に加えてさらに10冊1ヶ月借りることができます。

(1～3年生の場合、長期貸出)

夏休み・春休みには上記に加えてさらに10冊を休暇期間中借りることができます。

あなたの声 (投書箱)

図書館に対するご意見・質問にお答えします。OPACの“投書”、また館内の“あなたの声”にお寄せください。

資料の予約

貸出中の資料にはOPACから予約ができます。またOPACで表示された返却期限日が1ヶ月以上先の場合には、現在の貸出者に一時返却を依頼することができますので貸出・返却カウンターに申し出てください。

CAN 相互利用

愛知学院大学附属図書館と中部大学附属三浦記念図書館の所蔵資料は図書館のカウンターを通して無料で借りることができます。

1. 図書館ホームページ「総合案内」から本館を含む3図書館が同時に検索できる「CAN私立大学コンソーシアム相互利用」にアクセスし、「統合情報検索」で検索します。
2. 当館以外の図書館に所蔵があればカウンターに申し込んでください。

ネオシリウス

ナレッジ

オーバック

NeoCILIUS Knowledge OPAC

NeoCILIUS Knowledge OPACは館内のOPAC専用端末や図書館ホームページから利用できます。当館所蔵資料の他、南山短期大学図書館や各地域研究センターおよび各研究所の所蔵資料も検索できます。

“蔵書検索”のほか、“投書”、自分の借りている資料や返却期限日がわかる“利用照会”などのメニューがあります。

資料の取寄

これらの所蔵館で相互に資料をOPACから取り寄せることができます。

名古屋図書館⇔瀬戸図書館

名古屋・瀬戸図書館⇔南山短期大学図書館

館内での閲覧

図書館にある資料はすべて自由に手にとって利用することができます。

- ・名古屋図書館書庫の資料は閉館時間の30分前まで利用できます。
- ・グループで相談しながら学習する場合は名古屋図書館3階グループ閲覧室、瀬戸図書館多目的ルームを利用してください。予約は不要ですが、サークル、部活動目的の利用はできません。

開館時間 名古屋図書館 授業・試験期間 8:45～20:00 (土曜日 ～18:30)

授業・試験期間以外 8:45～18:30

瀬戸図書館 授業・試験期間 9:30～20:00 (土曜日 ～18:00)

授業・試験期間以外 9:30～18:00

※開館日等詳細は図書館ホームページまたはライブラリーカレンダーで確認してください。

購入希望図書

当館に所蔵していない資料で、ぜひ図書館に入れてほしいという資料購入のリクエストを受け付けています。申込方法など、詳しくは貸出・返却カウンターまで。

学外資料の入手

当館に所蔵がない資料は他機関からコピーや資料を取り寄せることができます。ただし入手に関わる費用は自己負担になります。レファレンス・カウンターに申し込んでください。

レファレンス

わからないこと、質問などがありましたら、レファレンス・カウンターへお越しください。

◆レファレンス対応時間

名古屋図書館：

8：45～16：30（平日）

8：45～12：00（土曜日）

瀬戸図書館：

9：30～17：20（平日）

他大学図書館の利用

他大学図書館を利用するためには紹介状が必要です。紹介状はレファレンス・カウンターで発行します。

最近では一般開放をして身分証明証だけでも利用できる図書館が増えてきました。例えば名古屋大学中央図書館は紹介状は必要ありませんが、学部の図書室は紹介状が必要です。このようにまだまだ紹介状が必要な図書館が多いのが現状です。かならず事前に確認してください。

図書館ホームページ

<http://www.nanzan-u.ac.jp/TOSHOKAN/>

図書館のホームページでは以下のメニューを提供しています。

◆What's New

図書館から最新の情報をお知らせします。

◆総合案内

図書館の利用案内。自分がどのように図書館を利用できるかわからない場合はこの案内を読んでみてください。また CAN 相互利用のお知らせもあります。

◆オンラインジャーナル・データベース

新聞や雑誌、辞典などを電子データとして提供しています。例えば朝日新聞を手にとらなくても、図書館ホームページにアクセスすればパソコン上で読むことができます。その他役に立つ関連サイトも利用できます。

- ・ DNA（朝日新聞記事全文データベース）
- ・ ヨミダス文書館（読売新聞記事全文データベース）
- ・ ProQuest Academic Research Library：学術雑誌2,300誌に収録された記事の索引や抄録。そのうち1,500誌は、記事全文を提供
- ・ ProQuest Newspapers：The New York Times, The Times, Financial Times の新聞記事全文を提供
- ・ The Oxford English Dictionary など。

◆当館の出版物

図書館で編集・発行している『デュナミス(図書館報)』『資料紹介』『カトリコス(カトリック文庫通信)』『図書館紀要』の内容を公開しています。

◆目録検索・利用照会

NeoCILIUS Knowledge OPAC は図書館ホームページからも利用できます。

◆カレンダー

その年度の図書館の開館日程、開館時間がわかります。

瀬戸図書館からのお知らせ (1)

社会倫理研究所・各地域研究センター所蔵資料の 瀬戸図書館への取り寄せ方法変更について

2003年4月より、社会倫理研究所、各地域研究センター（アメリカ研究センター〔アメ研〕、ラテンアメリカ研究センター〔ラテン研〕、オーストラリア研究センター〔オス研〕、ヨーロッパ研究センター〔欧研〕）所蔵資料を、瀬戸図書館に取り寄せる際の方法や利用条件が変わりました。

これまでと同様に OPAC から直接取り寄せることはできませんが、取り寄せた資料の館外貸出ができるようになりました。

サービス対象者	社会倫理研究所・各地域研究センター所蔵資料の瀬戸図書館への取り寄せを希望する 本学教職員・院生・学生・非常勤講師・臨時職員・学園職員
取り寄せ申込手続	瀬戸図書館 貸出・返却カウンターで申込書に記入してください。
送達日数	原則として申込日の翌開館日・翌々開館日以降に到着します。瀬戸図書館と所蔵館の開館日が異なる場合がありますので、数日かかることもあります。到着が遅い場合は、瀬戸図書館 貸出・返却カウンターにお問い合わせください。
申込者への連絡	瀬戸図書館内掲示板に「到着通知」を掲示します。（学部学生・院生）
保管期限	瀬戸図書館に資料が到着してから1週間保管します。
貸出期間・冊数	所蔵館の利用条件によります。（直接出向いて借り出した場合と同一条件です。） Ex. 教員（一般図書）：6ヶ月10冊（社倫研） 6ヶ月50冊（センター合計） 学生（一般図書）：2週間5冊（社倫研） 2週間10冊（センター合計）
貸出手続き	瀬戸図書館 貸出・返却カウンターに、掲示板から「到着通知」をはずしてお持ちください（学部学生・院生）。学生証またはユーザーカードも必要です。
更新手続き	返却期限日までに、瀬戸図書館 貸出・返却カウンターまたは所蔵館（社倫研・各地域研究センター）の窓口で資料をお持ちください。学生証またはユーザーカードも必要です。 ※名古屋図書館では手続きできません。
返却手続き	返却期限日までに瀬戸図書館 貸出・返却カウンターまたは所蔵館（社倫研・各地域研究センター）の窓口で資料をお持ちください。返却期限に遅れると1冊につき1日100円の延滞料がかかります。 ※名古屋図書館では手続きできません。

参 考：社会倫理研究所、各地域研究センターの利用時間

利用時間：平日 10：00～11：30、12：30～16：30

休 館 日：土曜・日曜・国民の祝日、大学の休業日、夏期・冬期休暇中

この他、臨時に休館することもありますので注意してください。

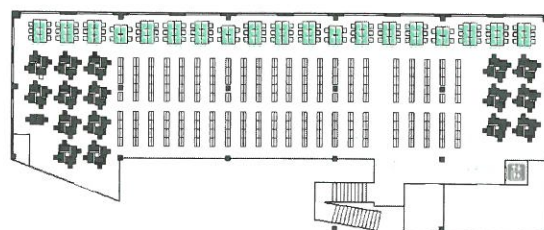
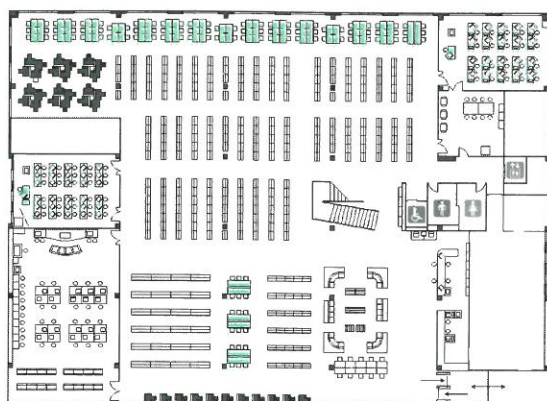
**直接出向く人は
ここに注意！**

瀬戸図書館からのお知らせ (2)

瀬戸図書館内でのノートPC利用について

これまで、瀬戸図書館内では、パソコンルームおよび多目的ルーム内でのみノートPCを利用することができましたが、2003年4月より、両室が満室の場合に限って閲覧室の座席（窓際の6人掛け・4人掛け席）でもノートPCを利用できるようになりました。ただし、スピーカは使用しないこと、ヘッドホンを使用する場合でも音声は外部に漏れないように注意してください。また、電源コンセントが用意されていない座席はバッテリー電源を使用してください。

なお、静粛な環境での利用を希望する利用者のために、一人掛けの座席（65席）でのノートPC等の利用はこれまでどおり禁止とします。



- : ノートPC利用禁止（一人掛け席）
- : ノートPC利用可
（多目的ルーム、パソコンルーム、
4人掛け、6人掛け席）

瀬戸図書館からのお知らせ (3)

開館時間を午前9時30分に変更！

これまで瀬戸図書館は午前9時15分に開館していましたが、瀬戸キャンパス授業時間帯の変更（1・2時限は午前9時50分開始）に伴い、午前9時30分からの開館に変更します。開館時間は15分遅れますが、授業開始前に利用できる時間は5分間の延長となります。なお、閉館時間の変更はありません。

	授業及び試験期間中	夏期・春期休業中
月～金曜日	9:30～20:00	9:30～18:00
土曜日	9:30～18:00	休 館

（Akira TSUCHIYA：教育研究支援係 土屋 玲）

資料紹介

昨年度購入した資料のご紹介です。

Encyclopedia of global environmental change

[地球環境変化百科事典]

請求番号 [R/519L/1178/v.1~v.5] 瀬戸図書館 地下1階

「環境」、この言葉の辞書的な意味は単に「取り囲むもの」でした。しかし、ここ数十年間で、「環境」は非常に多くの要素・社会的問題を含む通語となりました。地球環境の変化（温暖化、砂漠化、人口増大、戦争、都市巨大化等）が急速に進む中、それらについての対策や回復へ向けての動きが求められています。

この資料は、そのような課題に必要となる地球環境変化の諸問題についての情報を総合的に集め、自然科学だけでなく、経済学、社会学、医療等、様々な角度から取り上げた約900項目が収録されています。各巻末の項目リストや第5巻末の索引により、自分が知りたい事柄について調べることができます。また、各巻頭には関連した小論が掲載されており、百科事典の中の項目と相互参照することによって、そのテーマへの導入として利用することができます。

各巻の内容

- 1 The earth system : physical and chemical dimensions of global environmental change
- 2 The earth system : biological and ecological dimensions of global environmental change
- 3 Causes and consequences of global environmental change
- 4 Responding to global environmental change
- 5 Social and economic dimensions of global environmental change

Contents

Preface to the Encyclopedia of Global Environmental Change
Preface to Volume Five

The Human Dimensions of Global Change	1
Environmental Economics and Global Environmental Change	11
Ecological Economics	25
Environmental Economics	37
Global Environmental Change and Environmental History	49
Globalization in Historical Perspective	62
Technological Society and Its Relation to Global Environmental Change	73
Relating to Nature: Spirituality, Philosophy, and Environmental Concern	86
Social Science and Global Environmental Change	97
The Emergence of Global Environmental Change into Politics	109
The Environment and Violent Conflict	124
Development and Global Environmental Change	137
Anthropology and Global Environmental Change	143
Art and the Environment	163
Attenborough, David	175
Rehe's Faith and the Environment	176
BAT (Best Available Technology)	183
Batson, Gregory	183
Brent Spar	184
Brower, David	185
Budhism and Ecology	185
Business-as-usual Scenarios	191
Carson, Rachel Louise	192
CBA (Cost Benefit Analysis)	193
Chipko Movement	193
Christianity and the Environment	194
Circulating Freshwater: Crucial Link between Climate, Land, Ecosystems, and Humanity	201
Commons, Tragedy of the	208
Couture, Jacques	209
Deep Ecology	211
Demographic transition	211
Discounting	214

The Human Dimensions of Global Change

PETER TIMMERMAN

University of Toronto, Toronto, Canada

The central icon of the environmental movement is the earth hanging in space, that mysterious and unexpected cargo brought back from the voyages to the moon. See Figure 1 in *The Earth System*, Volume 1. It appears on bedroom walls, refrigerators, and annual reports by multinational food companies. Blue-green and spherical against the stark blackness of space, it speaks of all things natural, all things green, the vision of one earth, one world.

Yet, part of this paradox is that this environmental symbol was the result of the most advanced technological project in human history (at that time), whose roots are easily traceable to the challenge of the Cold War, the long-range missile projects beginning in World War II, the atomic bomb, the militarization of space, and even the elegant camera technology that enabled the pictures to be taken.

But the image is even more iconic and mysterious than that. At first glance, it appears a lonely image – the only image we have – devoid of human reference points, at least at the distance of the moon. Yet a nagging question is: where are we in this picture? The easy answer is that we are in there somewhere, maybe waving, or drowning. The more intriguing answer is that we see the picture that it took all of science and technology – that is, all of the ability to provide a temporary earth in a plastic suit in deep space to keep a human alive – and all of history, that is, not just evolution, but all the social and cultural residues that would make a being turn around at a precise moment floating in space, pick out the earth from the surrounding darkness as something worth photographing, and then lift a camera to his eyes, focus, and take a picture with some purpose in mind.

The literary critic, Marshall McLuhan, made a typically prophetic remark in 1970, in an obscure inaugural piece in an early environmental magazine (since defunct):

whereas the planet had been the ground for the human population as figure, since Sputnik, the planet has become figure and the satellite around it has become the new ground ... Once it is retained within a human environment, *Nature* yields its primacy to us.

McLuhan here invokes the familiar image of the figure-ground reversal – the faces that turn into vases, and back again; or the duck that flips into a rabbit and ducks back

again – to suggest that while up until the arrival of the image from space, human beings saw themselves as figures on a ground, the environment is now a mere figure on human grounds.

The figure-ground reversal suggests that this is a sudden perceptual shift; which may be the case, but its elements have been arriving for some time.

One early element can be found in the idea that the higher you go off the earth, the closer you approach the realm of God. This is obviously exhilarating, but it is also blasphemous and unsettling. An early source is the temptation of Jesus, who, after being baptized by John, goes into the wilderness where he is tempted by the devil. Among the trials he undergoes is that of the potential for total earthly power; and the devil takes him to the highest point of the world and shows it all to him before Jesus rejects it. Peaks are for falling off of, as well as for gaining perspective.

In later medieval literature, airborne journeys of a more lighthearted sort take to the skies, the birds driven by geese or lifted up by air currents, or in a dream. Yet when Dante leaps off the earth and moves into the higher realms in *The Divine Comedy*, it is clear that this is unsettling. A later appearance of the earth from space, in Milton's *Paradise Lost* is ominously seen from the perspective of Satan, newly released from the prison of Hell, and flying around the universe looking for a new home away from home.

This Godlike stance, epitomized by the image of the earth from space, is, as literature suggests, powerful. The arrival of global maps and globes in the 16th century was part of the great surge of Western power that began with the age of discovery and has only intensified its reach in the age of the Internet. The ability to hold the world in our minds is the forerunner of the ability to hold it in our hands, and vice versa.

<ページサンプル (5巻)>

問題集コーナーができました

名古屋図書館

1階閲覧室

瀬戸図書館

地下1階マルチメディアルーム

図書館では、学生の皆さんが自分で問題集を買う時の参考になるように、各種問題集資料を購入することになりました。多くの利用者の方に見ていただくため、館内利用のみ可能となっています。（取寄はできません。）主に以下のような分野の資料が入っています。

■語学関連■

【名古屋図書館】

【瀬戸図書館】

請求番号：DRILLG～

DRILLG-L～

英検、TOEFL、TOEIC
中検、日本語能力試験

- * 付属資料としてCDやCD-ROM等が付いている場合があります。利用方法の詳細は館内掲示にてご確認ください。
- * 語学関連の問題集コーナーは、視聴覚ライブラリー（名古屋キャンパスL棟2階）にもあります。

■資格関連■

【名古屋図書館】

【瀬戸図書館】

請求番号：DRILLS～

DRILLS-L～

ワープロ検定、パソコン検定
MOUS 試験、インターネット検定
初級・上級シスアド

日商簿記、秘書検定
中小企業診断士、証券アナリスト
一般・国内旅行主任者
法学検定試験、公務員試験

社会保険労務士
行政書士、司法書士

- * 資格関連のガイドブック類は、各館ともブラウジングコーナーにあります。

また **■教職課程■** 関連の問題集も入っています。

【名古屋図書館】

【瀬戸図書館】

請求番号：KYSK～

DRILLS-L～

今年度も引き続き様々な問題集資料を購入していく予定です。自分にピッタリの問題集を見つけるために、問題集コーナーを是非活用してください。

（Yuko SATO：教育研究支援係 佐藤 裕子）

新入生のみなさん！

Hello! 你好! Guten Tag!

南山大学図書館では、新入生のみなさんを歓迎して企画展を開催します！

2003年度新入生歓迎企画展 「世界の国からこんにちは！！」

南山大学の特色である「国際性」をテーマに、世界各国の言葉や文化を紹介！
日本と世界の間を架け、留学制度やNAP（短期アジア留学プログラム）
など南山大学と世界との関わりについてもご覧いただけます。
本やビデオなど、「世界」に関する蔵書の展示もありますよ。

充実した学生生活を送るためにも、もっともっと南山大学について知ってください。
そして、図書館をどんどん利用してくださいね。

開催日程

4月2日(水)～4月18日(金)

南山大学名古屋図書館

1階ブラウジングコーナーにて

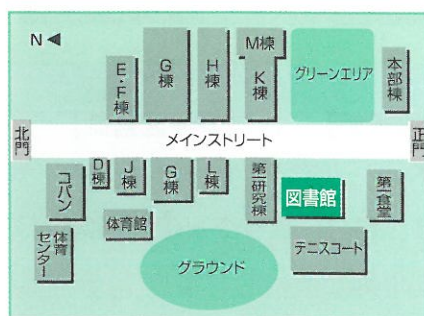
4月22日(火)～5月9日(金)

南山大学瀬戸図書館にて

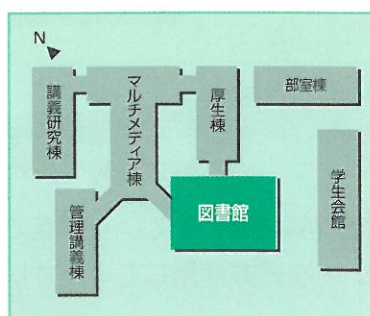
※両図書館とも開館時間中の開催となります。

《編集後記》

デュナミスに南山大学ロゴと目次が入り新しくなりました。これからもご愛読下さい。(村)



<名古屋キャンパス>



<瀬戸キャンパス>

南山大学図書館報 デュナミス No.43

2003. 4. 1 発行

<http://www.nanzan-u.ac.jp/TOSHOKAN/>

発行：南山大学図書館 広報委員会

編集委員：村上、大橋(仁)、大橋(美)

印刷：一誠社

〒466-8673 名古屋市昭和区山里町18

Tel: 052 (832) 3707/Fax: 052 (833) 6986